

重要文化財

東福寺

五百羅漢図

修理と研究

定価 二四、二〇〇円(税込)

本体 二二、〇〇〇円(+税)

二〇二三年十月

B4判変型上製カバー装 二七六頁

ISBN978-4-585-37010-9 C3071



ごひやく
らかんず

「画聖」と称された室町期を代表する

絵仏師・吉山明兆の超大作「五百羅漢図」。

大本山東福寺所蔵の四十七幅(四十五幅・附二幅)及び

根津美術館所蔵の二幅についての十六年の長期にわたる

保存修理の成果とその下絵五十幅

さらに長らく所在不明とされてきたが、近年 ロシア・エルミタージュ美術館に

所蔵されていることが明らかになった第五〇号を大判のカラー図版により掲載

また、調査の過程により見出された新発見、装潢修理における

試行錯誤の成果を示した論考・コラム、諸種の資料も収載し、

これまで全貌が未紹介であった東福寺五百羅漢図の研究に重要な材料を提供する。

日本文化史・美術史・仏教史・文化財学をはじめ諸分野に益する障目すべし一書!

石川登志雄 二編

重要文化財

東福寺

五百羅漢図

「画聖」と称された
室町期を代表する
絵仏師・明兆による
超大作「五百羅漢図」の
全貌!

修理と研究

■もくじ

刊行にあたって 大本山東福寺管長……原田融道

—— 図版編

修理後写真／東福寺本・根津美術館本

第五〇号写真／エルミタージュ美術館本

修理工程写真／東福寺本・根津美術館本

五百羅漢図下絵写真／東福寺

第五〇号復元模写

五百羅漢図本紙表面書入れおよび「東福寺」印一覽

—— 各論編

保存修理事業の概要

明兆筆五百羅漢図序論……綿田稔

五百羅漢図軸木銘文にみる制作と修理の諸問題……石川登志雄

明兆筆五百羅漢図をめぐる諸問題……高橋真作

東福寺の再興と明兆……森道彦

羅漢供祭文について……日種真子

五百羅漢図修理の特殊性

—— 定期的な合同修理事業を振り返る……岡岩太郎

—— コラム編

1 修理前調査にみる現状と修理の要点……竹上幸宏

2 本紙表面からの補絹方法の模索……伊加田剛史

3 解体修理における肌裏紙の除去と

永徳二年銘文の発見……小島知英

4 新肌裏紙の色調整について……佐味義之

5 五百羅漢図の復元模写……富澤千砂子

—— 資料編

五百羅漢図軸木銘文集

五百羅漢図関係史料

五百羅漢図修理関係年表

五百羅漢図修理一覽

編集後記……石川登志雄

—— 編者紹介

石川登志雄

(いしかわ・としお)一九五五年生まれ。京都府教育委員会文化財保護

課技術職員、京都造形芸術大学芸術学部歴史遺産学科准教授、京都産

業大学文化学教授を経て、現在、同客員教授。主な著書に「平等院鳳

凰堂と浄土院」(監修、二〇二二年)、「東福寺」(執筆、二〇二三年)など。



書店番線印

ご注文冊数

定価 24,200円(税込)
本体 22,000円(+税)
2023年10月刊行
B4判変型上製カバー装 276頁
ISBN978-4-585-37010-9 C3071

重要文化財
東福寺五百羅漢図——修理と研究
石川登志雄 二編

お名前・ご住所・お電話番号ほか

株式会社勉誠社 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-18-4
TEL=03-5215-9021 FAX=03-5215-9025 E-mail=info@bensei.jp URL=https://bensei.jp/

※ご記入いただいた個人情報は、書籍の発送、お支払い確認、ご希望いただいた方への刊行案内をお送りするために使用し、それ以外での使用は致しません。

B4判変型上製カバー装・276頁・定価24,200円(税込)・2023年10月刊行

株式会社
勉誠社

第一号

僧院における集団生活の一部を描く系統の図様で、岩窟内の一室で高僧が講義を行っている様子を描いている。あるいは、仏伝中のいわゆる経典結集のイメージが重ねられているとも考えられている。D 37「講説筆記」と類似する図様である。大徳寺本では椅子に坐る高僧の額に白毫が描かれ、さらに頭上から天女が来臨し、高僧を別の尊格になぞらえるような意図がうかがえた

が、本図ではそうした表現はとられていない。画面右上で歩く人物は現状の大徳寺本にはないが、ちょうどその部分が人物のシルエット状の後補に代わっており、大徳寺本においてもその位置に従者などが描かれていた蓋然性が高いだろう。



第一号

修理後写真

膨大な時間と労力を費やし修理を終えた重要文化財「東福寺五百羅漢図」をフルカラーで初公開。

近年所在が明らかになつたエルミタージュ美術館所蔵の一幅を併せて構成。「東福寺五百羅漢図」全編を通して刊行される初めての一冊となる。

修理工程写真

十六年にわたる修理の概要を、一幅ごとに紹介。

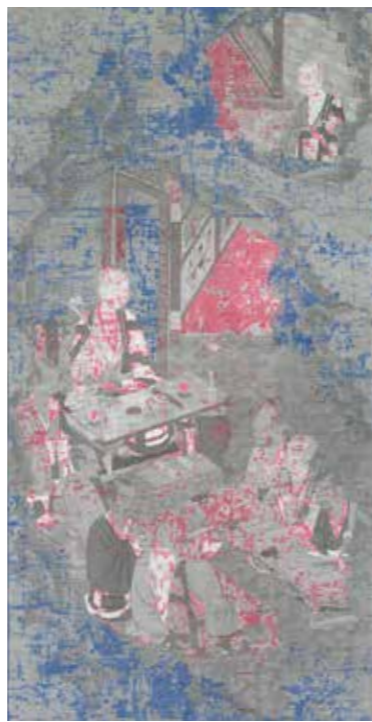
修復前の損傷の様子を全体撮影・拡大撮影および特殊撮影を駆使し丁寧に記録。
折れ皸、亀裂、彩色の剥離、汚れ、旧補修箇所の不具合などを詳細に記録し、修理後の写真と並べて掲載した。



全図 修理前



旧肌裏紙除去後 修理中



損傷箇所



金泥書「芳林明春」



「東福寺」印



吉山明兆
1352-1431

東福寺の仏画工房を率いて一時代を築いた、伝説の絵仏師。清新かつ流麗な筆法を駆使しながら、規格外のスケールを誇る大作や連幅を数多く手掛け、その高名は同時代のみならず後世まで鳴り響いた。数々の伝承に彩られた、文字通りのレジェンドである。

(本書高橋論文より)



修理後



修理前 料糊の粉状剥離



修理後



修理前 亀裂



修理後



修理前 横折れ



修理後



修理前 亀裂